# XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム(第1期) 募集要領

一般社団法人うめきた未来イノベーション機構(U-FINO)

#### プログラムの趣旨・目的

本プログラムは、関西の社会課題解決と新産業創出、新規事業創出を目的とし、関西が国際的な社会課題解決事業を生み出すエリアとなることを目指しています。

社会課題解決と新産業創出、新規事業創出を両立するためには、民間企業と行政組織が有機的に共創することが重要です。行政組織が対応する社会課題の本質的な問題点を提示し、民間企業から広く解決策(事業企画)を募集し、優れた解決策に対して主催者をはじめとした関西一円の行政組織や金融機関、関係機関が集中的に支援する予定です。

2024年9月にうめきた2期地区に「グラングリーン大阪」が開業し、主催者が拠点を置く、JAM BASEも開業したタイミングに合わせて、新たにプログラムを開始し、参画企業を募集するものです。

#### 募集期間

2024年10月1日(火曜日)から2024年11月7日(木曜日)18時

#### 募集対象・応募資格

以下のいずれかの課題テーマに該当する事業を対象とします。

ファイナリストに選ばれた際には、11月28日にうめきたエリアで開催する審査会(最終ピッチイベント)に、対面で参加いただくことが前提になります。

課題テーマ①GREEN:「脱炭素」「ごみゼロ」に関する事業

(A-1:住民や事業者の再エネ・省エネを進めたい)

(A-2:フードロス(食品余剰廃棄)を減らしたり、リサイクルを進めたい)

(A-3:子どもや高齢者等の熱中症リスクを減らしたい)

課題テーマ②HealthCare:「健康」「ヘルスケア」に関する事業

(B-1:健診受診率を高めたい)

(B-2:住民の不健康な生活習慣を改善したい)

(B-3: "ちょっとした不調"を我慢する人を減らしたい)

(B-4:フレイル対策を進めたい)

課題テーマ③Mobility:「移動」「モビリティ」に関する事業

(C-1:公共交通の収入・利用者を増やしたい)

(C-2:行政の遊休資産等を生かして、ラストワンマイル・短距離移動を充実したい)

(C-3:住民等の移動ニーズを行政が把握して公共交通網を維持したい)

(C-4: 高齢者等がオンデマンド交通や買い物を利用できない点を解消したい)

課題テーマ(①GREEN、②HealthCare、③Mobility)に関する事業であれば、どのような事業内容、事業規模でも幅広く対象となりますが、事業フェーズとしては、今後の事業開始や社会実装を見据えて、事業モデルの仮説検証もしくは実証実験やプロトタイピングなどの研究・開発に取り組んでいることが望ましい。

※創業年数、事業領域は問いませんが応募は法人に限ります。

※書類審査を通過し、ファイナリストに選ばれた際には、本プログラムの審査会(最終ピッチイベント)に対面で参加できること。

※反社会的勢力でないこと、反社会的勢力との関係がないことを条件とします。

※上記に関わらず、主催者が不適切と認めた応募者は、応募資格を取り消す場合があります。

#### 提出書類・提出方法

- ・提案申請書 (所定の様式) A4
- ・補足資料(任意の様式)A4・4枚まで

2024 年 11 月 7 日(木曜日)18 時(必着)にて、以下のプログラム事務局へ E メールでご送付をお願いします。

送付先: info@u-fino.com(担当:池田)

#### 提出後の流れ

#### 1次審査(書類審査)

2024年11月15日(金曜日)までに結果をご案内します。

※申請書に記載された連絡先にEメールで通知します。

#### ファイナリスト(書類審査通過者)の決定

1 次審査を通過した事業者に対して、11 月 28 日の審査会への参加確認をさせて頂いた上で、ファイナリストとして採択します。ファイナリストは最大 8 社程度を想定しています。 ※ファイナリストに選ばれた事業者は、一般社団法人うめきた未来イノベーション機構ホームページやプレスリリース等で社名、提案事業名などを公表いたします。

#### 最終審査会(ピッチ審査)

最終審査会は、2024 年 11 月 28 日 (木曜) 午後に 「グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター」で開催する、うめきた未来イノベーション機構主催の都市型複合イベント「イノベーションストリーム KANSAI 8.0」のプログラムとして、一般来場

者もオーディエンスとして参加する中で、会場開催を予定しています。

最終審査会で各賞を決定し、入賞企業については表彰およびその後のフォローアップ支援 を行います。

#### 審査委員(予定)

委員長 中沢 則夫氏(一般社団法人うめきた未来イノベーション機構 理事長) 委 員 有識者 5 名程度を予定

#### 審査基準

基準 1 本プログラムの趣旨、目的を理解し、関西圏の社会課題解決や多くの自治体が抱える地域課題解決の点で優れていること

基準 2 事業モデルの新規性や革新性、優位性、成長性などの観点で優れていること

基準 3 事務局が提示する社会課題の本質的な問題点(A-1~C-4のいずれか)へのアプローチを意識していること

基準 4 自治体への単なる営業目的ではなく、共創による事業開発・社会貢献・事例組成を 目的とする事業を行おうとすること

#### 参加費用等

本プログラムの応募に関して費用はかかりません。

ただし、応募にかかる通信費や、最終審査会への参加にかかる交通費等は提案者にご負担いただきます。

#### 入賞企業特典

- 1 一般社団法人うめきた未来イノベーション機構ホームページでの受賞企業の紹介
- 2 自治体との実証事業推進に向けた伴走支援(2ヶ月程度)
- 3 次年度自治体向けセミナーでの表彰事業のプレゼンテーション (予定)
- 4 「XKANSAI メンバーシップコミュニティ」でのプレゼンテーション ※関西における社会課題解決に関心がある自治体職員、金融機関社員、関係機関職員、 マスコミ関係者が個人の立場で参加するコミュニティ
- 5 一般社団法人サスティナビリティデータ標準化機構が提供する「非財務指標評価システム」の無償提供

#### 知的財産権、個人情報の取り扱い

- 1 知的財産権の取り扱い
- (1) 提案内容に関する著作権その他の知的財産権は応募者に帰属しますが、最終審査会には一般来場者も参加しますので、秘密事項は記載、発表しないようにご注意ください。

(2) 提案内容は、第三者の著作権その他知的財産権を侵害していないものに限ります。 万が一、提案内容が第三者の権利を侵害している場合または侵害する恐れがあると主 催者が判断した場合(応募後に侵害となった場合を含みます)、入賞特典等を取り消すこ とがあります。

#### 2 個人情報の取り扱い

- (1) エントリーシートに記載された個人情報及び提案内容に関する情報は、本プログラムに関連する目的(審査、エントリーに関する各種連絡、関係支援機関への共有のほか、主催者からの各種情報提供(Eメールでの事業案内含む))のために使用します。
- (2) 本人の同意なしに他の目的で利用および第三者へ提供いたしません(ただし、法令に基づく場合は除きます。)。
- (3) ご提出いただいたエントリーシート、補足資料は返却いたしません。

#### 事業運営体制

主催:一般社団法人うめきた未来イノベーション機構

企画運営支援:株式会社ソーシャル・エックス

以上

#### XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム第1期(2024年度)提案申請書

2024年 月 日

事業名					
企業・団体名					
申請にあたっての 代表者名			担当者名		
所在地					
E-mail					
該当する課題テーマ	該当する課題テーマ		□ GREEN (脱炭素・ごみゼロ) 分野		
(該当するものに∨をつけてください)		□ HealthCare(健康・ヘルスケア)分野 □ Mobility(移動・モビリティ)分野			
		□ MODIIIty(移動・モビリティ)分野			
アプローチする課題ポイント		例えば、別紙の「健康・ヘルスケア」の社会課題の中で、「健診受診率を高めたい」という問題にアプローチする事業の場合は、「B-1」と記載する。			
(別紙の「募集課題テーマ及び課題構造マッ					
プ」をご覧いただいたうえで、該当する番号					
を記載ください)					
事業概要					
(提案事業の社会背景)	※500 文字以内でご記	己入くださ	ι <sub>`</sub> ,		

営業利益

(ビジネフ	スモデル)※500 文字以内で	ご記入ください、誰か	らどのようにお金を得	ろかをご記入ください。	
( ) )   )	(1777) 从3000 人] 外门(		うこのな 入に43平 5日	an ecapy (recv.	
(収支計画) ※現時点での今後3年間の収支計画をご記載ください。(提案事業のみの収支計画) (単位:千円)					
		1年目	2年目	3年目	
	売上				
	人件費				
	設備投資				
	その他販売管理費				

(事業概要) ※500 文字以内でご記入ください。詳細の事業内容は任意の様式(A4・4 枚以内でご提出ください)

(提案申請書)	XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム(第1期)
提案事業によって解決される社会認	課題、自治体が抱える地域課題(創出される社会的インパクト)
提案事業を進めるために自治体や関	関係機関とどのようなパートナーシップを進めたいか
(自治体や関係機関にとってのメリ	リットも考慮の上、ご記入ください)
その他、今回の提案事業を進める	ために各機関(主催者、行政など)に期待すること

XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム(第1期)

# 募集課題テーマ

# ● GREEN (脱炭素/ごみゼロ) 分野の募集課題について

目指す社会的インパクト :地球温暖化・気候変動をストップ

自治体が抱えているペイン:自治体財政の圧迫、自治体カーボンクレジットが増えないことなど

### 目指す社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性
A- 1	住民や事業者の再エネ・ 省エネを進めたい	住民や事業者が使うエネル ギーを低減し、気候変動・ 地球温暖化、地域環境悪化 の負の循環のストップ	都市部への人口集中や経済活動の活性化により、エネルギー使用の増加が進んでいます。自治体の人口減少対策や関係人口の創出と同時に、エネルギー消費の削減も目指さなければなりません。自治体には住民や事業者をつなぐハブとしての役割が期待されており、自治体の財源投入による省エネ施策とは別の切り口の官民が連携する事業提案を求めています。	★★★★ 課題の自治体共通性は高 い
A- 2	フードロス(食品余剰廃 棄)を減らしたり、リサ イクルを進めたい	食品の過剰廃棄を低減する ことで気候変動・地球温暖 化、地域環境悪化の負のル ープのストップ	自治体としてもフードロス対策を進めていますが、食品廃棄物を 減らす必要性について理解が十分に広がっていないことや、フード ロスが生じる仕組みに課題があります。 自治体は様々な業種とのネットワークがあり、そのようなハブ機 能を活かしつつ、自治体の財源投入による施策とは別の切り口の官 民が連携する事業提案を求めています。	★★★★ 課題の自治体共通性は高 い
A- 3	子どもや高齢者等の熱中 症リスクを減らしたい	熱中症リスク増加、エアコン使用頻度増加、炭素排出増加、地球温暖化の進行という負のループのストップ	都市部を中心に、地球温暖化やヒートアイランド現象により、夏場の熱中症リスクが高まっています。これにより、住民の健康や子どもの学習環境、経済活動にも影響が及んでいます。 地域住民の熱中症リスクを軽減する官民連携した事業提案を求めています。	

# ● HealthCare (健康・ヘルスケア) 分野の募集課題について

目指す社会的インパクト :健康寿命を伸ばす

自治体が抱えているペイン:自治体財政の悪化、介護保険財政の悪化、健診受診率の向上や健康増進のための追加施策が必要となることなど

目指す社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
B- 1	健診受診率を高めた	未病の人も含めて、もっ	自治体は住民の健康増進のために健診を推奨していますが、特に若年層で	****
	い	と多くの住民が健診を受	受診率が低い傾向にあります。「健診は時間がかかる」「若いうちは健康」と	ほとんどの自治体が抱え
		診し、健康増進意識を高	いった思い込みや、健診制度自体を知らない人が一定数いることが要因と考	ている課題
		めて日常生活を過ごせる	えられます。これらの課題を解消するために新たなテクノロジーや発想に基	
		こと	づく、新しいサービス、取り組みにつながる事業提案を求めています。	
B- 2	住民の不健康な生活	地域住民の運動不足をは	生活習慣が健康に大きく影響する中、自治体は健康増進の啓発活動や	***
D- Z	習慣を改善したい	じめとする生活習慣を改	イベントに取り組んでいますが、成果が十分に上がっていない場合があ	課題の自治体共通性は高
		善し、病気になるリスク	ります。財源に限りがある一方、自治体は住民や医療・介護事業者、市	い
		を低下すること	内企業とのハブ機能があります。これを活かし、運動不足解消や健康的	
			な生活習慣の促進につながる新たな事業提案を求めています。	
B- 3	"ちょっとした不調"	多少の不調を我慢、病気	住民の病気が進行するほど保険料は増加し、現役世代への経済的負担が重	***
D- 3	を我慢する人を減ら	の進行、医療費増加、通	くなり、生活費の削減による通院控え(軽い不調を我慢する負のループ)に	課題の自治体共通性があ
	したい	院控えという負のループ	つながります。軽い不調でも我慢せずに通院を促すような、ナッジの活用	る
		のストップ	や、新しいテクノロジーを活用した事業提案を求めています。	
B- 4	フレイル対策を進め	健康な高齢者等が増え、	フレイルとは、「加齢により心身が老い衰えた状態」のことです。	***
	たい	健康寿命が長いまちとな	いつまでも健康に過ごせる地域社会であれば、一人一人のウェルビー	課題の自治体共通性は高
		る	イングや自治体財政にとっても良い影響が期待できます。高齢者等の	い
			フレイル対策となる新たな事業を求めています。	

# ● Mobility(移動・モビリティ)分野の募集課題について

目指す社会的インパクト :住民の移動やビジネス往来、買い物が困難な状態を解消

自治体が抱えているペイン:自治体財政の悪化、地域公共交通機関の維持が困難なことなど

目指す社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント	課題の共通性 (インパクト市場の大きさ)
C- 1	公共交通の収入・利用者 を増やしたい	公共交通を利用した外出や 来訪の増加による公共交通 の利用促進	域内人口や関係人口の減少により、公共交通機関の利用者も減少しています。自治体は補助金で運賃や広告費の不足を補っていますが、限界があります。公共交通機関の利用者を増やすために民間のサービスと連携した新たな事業提案を求めています。	★★★★ 課題の自治体共通性は高 い
C- 2	行政の遊休資産等を生か して、ラストワンマイ ル・短距離移動を充実し たい	行政の遊休資産を生かして ラストワンマイル・短距離 移動を実現することで、住 民の利便性や満足度を向上	コンパクトシティの推進や公共施設統廃合等によって行政が抱える遊休資産(土地建物などの行政財産)が増えています。こうした 資産を活用して住民の移動や買い物がしやすくなるラストワンマイル、短距離移動の促進の取り組みにつながる新たな事業提案を求めています。(遊休資産を活用しない事業でも構いません。)	★★★ 課題の自治体共通性があ る
C- 3	住民等の移動ニーズを行 政が把握して公共交通網 を維持したい	マーケティングの発想を取 り入れ、効率的で効果的な 公共交通の運営を推進	自治体は公共交通網の維持に取り組んでいますが、維持が困難になっている一因として、利用者や住民のニーズを十分に捉えきれていないことが考えられます。マーケティングのノウハウやテクノロジーを活かし新たな取り組みにつながる事業提案を求めています。	★★★ 課題の自治体共通性があ る
C- 4	高齢者等がオンデマンド 交通や買い物を利用でき ない点を解消したい	誰でも快適な移動や買い物 ができる環境の構築	自治体は、デマンド交通や、先進的な技術導入などを通じて、移動支援に取り組んでいますが、高齢者等にはそうしたサービスの利用に不慣れな方もいます。よりユニバーサルなモビリティサービスの実現につながる事業提案を求めています。	★★★ 課題の自治体共通性があ る

## 募集課題テーマの選定について

「XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム(第1期)」では、民間企業が自社のリソースやテクノロジー、知見を活用・応用して、社会課題解決や社会的インパクトを生み出しつつ、イノベーティブなサービスの創造や新規事業の開発・展開がされることを目指しています。中でも、社会課題解決や社会的インパクトの創出のために、課題の現場を多く抱える自治体が民間企業と連携していくことがとても大切だと考えています。

民間企業が有する経営資源にも限りがあることから闇雲に自治体の課題を提示して民間企業から解決策を募集することは社会課題解決のためには非効率であると考えました。そうしたことから、本プログラムでは、うめきた未来イノベーション機構(U-FINO)が"脱炭素/ごみゼロ"、"健康・ヘルスケア"、"移動・モビリティ"という3つの社会課題を選び、その3つの社会課題ごとに、「システムとして何が本質的に問題になっているのか」を7月以降、関西圏の自治体の協力を得ながら構造的な把握・分析等を進めました。

大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀の広域・基礎自治体職員の参画を得てワークショップを行い、次ページ以降にある社会構造マップとして整理するとともに、そのマップ内において自治体が真に困っていることは何か、またその社会課題全体を好転させる「本質的で根本的な問題点・要素」について議論を重ねました。システムシンキングの考え方において、その社会課題全体に好影響を与える「本質的で根本的な問題点・要素」のことを「レバレッジ・ポイント」と呼びます。自治体が抱える課題解決にもつながる「レバレッジ・ポイント」を 10 点抽出し、本プログラムにおける「募集課題テーマ」といたしました。(前ページまでに掲載)

今回、民間企業から自社のリソースやテクノロジー、知見を用いた新規性が高い事業企画を募集します。

課題構造やレバレッジ・ポイントの設定(募集課題選定)のプロセスで現場の課題を抱えている関西圏の大小の自治体職員の協力を得ていることから、単なるアイデアレベルのものではなく、実証事業を伴うような事業企画であれば、本プログラムにおける各賞受賞の可能性も高くなり、また実際に事業企画の実証につながったり、関係機関からの支援を受けやすくなると考えています。社会課題を根本から解決するための、新たな事業の応募をお待ちしています。







